



[講演]

## 北米の日本語教育の 動向と日本語教育 専門家の取り組み

サンディエゴ州立大学教授、  
日本国際交流プログラムディレクター、  
アメリカ州立大学連合「日本研究セミナー」ディレクター  
日暮 嘉子

○日暮 ただいまご紹介にあずかりましたサンディエゴ州立大学の日暮と申します。どうぞよろしくお願いたします。

きょうは、「北米の日本語教育の動向と日本語教育専門家の取り組み」ということでお話いたします。

私のおりますサンディエゴ州立大学の写真でございます。サンディエゴ州立大学はカリフォルニア州州立大学機構 23 校のうちの、フラッグシップ・キャンパス扱いになっておりまして、学生数 3 万 6,000 人、学部、修士、博士、全てがそろっている総合研究大学でございます。今回、立教大学さんと交換留学の提携が結ばまして、来年の秋から学生を交換することができるようになりました。どうぞよろしくお願いたします。ありがとうございます。【スライド②-2】

きょうお話しする主なトピックは、「日本語学習者数の推移」「全米日本語教育学会の活動」「サンディエゴ州立大学の活動」「アメリカ州立大学連合の活動」「アジア学会の活動」でございます。少しずつお話いたします。【スライド②-3】

まず、アメリカにおける日本語学習者数の推移ですけれども、これは MLA (Modern Language Association) という学会がございまして、大学レベルにおける外国語履修者数を 3、4 年ごとに調査しております。そして 1960 年から 2009 年までのデータが出ております。最新のデータは未発表で、今待っているところでございます。【スライド②-4】

これはラテン語、それから古典ギリシャ語を除いた大学レベルにおける学習者数の推移です。ごらんになっていただければお分かりのように、1960 年から 68 年まで上がって、少し落ち着いて、また揺り戻しがあって、落ち着いて、そ

して 90 年代に入ってまた上がって、落ちついて、それから少しずつ上昇を続けております。2009 年で 162 万 9,326 となっております。【スライド②-5】

この表の数字は何を意味しているかといいますと、アメリカの大学 100 校で出しているクラスの中で、外国語の履修者数がどの程度、何%になっているかを示しています。そうしますと 1960 年の 16.1% からだんだん落ちてきて、1977 年あたりで 7.8%、その後はだいたい 7% から 8% のあたりで収まっています。【スライド②-6】

そして学習者数の推移ですけれども、日本語の場合、これはスペイン語を除いた数ですので、日本語の学習者数は、アメリカでは第 6 位に入っています。これは先ほどのグラフの日本語のところを少し大きくしたものですけれども、90 年代のバブルのときに急激に増えて止まって、また少しずつ増えてという形になっております。【スライド②-7, 8】

次のところは、2002 年の数値です。全体において学習者数は日本語の場合 3.74%、2006 年は 4.22%、そして上昇率、増加率も、2002 年から 2006 年、外国語全体が 12.9% であるのに対し、日本語は 27.5% 伸びています。それから 2006 年から 2009 年ですけれども、これは言語全体が 6.6% 伸びているのに対して、日本語は 10.3% 伸びています。そして学習者数ですけれども、全体に占



めるパーセンテージは 4.36%、つまり 4%強というところで落ちついています。ごらんになってお分かりのように、中国語の伸びが非常に大きいですね。アメリカでも、主な大学全てに孔子学院が入ってしまっていて、国家戦略として、中国語を後押ししていますので、非常に伸びています。それからアラビア語は、もちろん政治的な、軍事的ないろいろな面もありまして、学習者数が伸びています。韓国語の伸びも非常に素晴らしいと思います。そしてあと、ポルトガル語が伸びています。【スライド②-9】そして私、よく言うのですが、日本語の先生方が、中国語に学習者数を取られてどうのこうのということをおっしゃいますけれども、そうではなくて、アジアとして、アジア研究として見たときに、今のタイミングとして中国語が伸びるのだったらそれでいいと。韓国語が伸びるのだったらそれでいいと。でも、アジア全体に目を向けてくれる学習者数が増えていることが大事だと。つまり、ラテン研究、中近東研究ではなくて、アジア研究に学者の目が向く、学習者の目が向くというのが大事だということを、私はよく言っております。

その次です。これは初級レベルと上級レベルの学習者数の比較です。日本語の場合、2年制のコミュニティーカレッジで始めてくれる学生も入っています。これだけの数がありますけれども、上級者レベルになると、4分の1程度になってしまうということが分かります。【スライド②-10】

次のはコミュニティーカレッジを除いたものです。4年制大学で勉強している日本語履修者数ですけれども、だいたい初級と比べて上級になると3分の1程度に減ってしまうということが分かります。【スライド②-11】

今度は、全米日本語教育学会、アメリカにおける日本語教育の専門家の集まりですけれども、この学会について少しお話ししたいと思います。北米の二大日本語教育学会が統合して誕生した学会です。2012年1月1日に誕生しました。日本語教育学会(ATJ)と日本語全米教師会(NCJLT)という学会が統合しました。【スライド②-12】ATJは、会員は主に大学教員で、アジア学会の傘下に入っております。【スライド②-13】従いまして、年次総会もアジア学会と同時に開催しまして、3月に行われました。そして日本語全米教師会は、主に小学校から高校までの先生方がメンバーです。そして American Council on the Teaching of Foreign Languages (ACTFL) の傘下に入っていますから、年次総会は ACTFL と同時で、11月に行われていました。【スライド②-14】

AATJになってからは、全米レベルでの学会発表の機会が年に2回ということになりまして、11月にACTFLと同時開催。実践的な学会です。ほかの外国語の教員と交流ができるということで、非常に有益な学会です。そして3月にはアジア学会と同時開催で、もともとアジア学会というのは学際的な学会ですので、アジアに関するさまざまな分野の専門家と交流ができます。例えば政治、経済、宗教学、経済学、人類学、歴史学、何でもいいのですけれども、非常に有益な学会です。【スライド②-15】

そしてAATJの活動として挙げられるものに、学会発表以外に、教員用のオンラインコースというのがございます。これは定員16名で、使用言語は主に日本語、使用文献は主に英語で、全世界からの参加が可能です。コースとしては、今までのところ、このような、Content-Based Instruction、それからBasics of Japanese Language Teaching、Reading Strategies and Classroom Instructionというコースを出していて、非常に好評だということです。【スライド②-16】

それから学習者の学習意欲を高めるために年賀状コンテストというのをやっています。今年はへび年ですので、こういうような入賞者が出たということです。小学校レベル、中学校レベル、高校レベル、大学レベルと、レベル分けしましてコンテストをします。これは6年生から8年生、つまり日本式で言うと小学校6年生から中学2年生までのレベルですけれども、Artistic、芸術性に富んでいるカテゴリーですね。それからComic、コミカルでおかしい、面白いというカテゴリーです。それからOriginalで、独創性に富んでいる年賀状ということで、1位、2位、3位となっています。【スライド②-17】

今度は9年生、日本でいう中学3年から、12年生、高校3年生までのレベルですけれども、なかなか気合の入ったいい年賀状ができています。【スライド②-18】そして大学レベルは、皆さん勉強で忙しいんだと思うのですが、あまりエントリーがなくて、そして芸術性に富んだグループ、コミカルが全然なくて、独創性に富んだグループが1位と2位というふうに入っています。比較してみますと、高校生のほうが頑張っている感じですね。中学生もいいかもしれませんね。非常に楽しんでやっているのがよく分かります。【スライド②-19】

このほかにもAATJにはいろいろな活動があるのですが、Articulation関連の活動があります。世界中のいろいろな組織で日本語を勉強している学生が

たくさんいますので、1つの国から次の国へ移った場合、1つの制度から次の制度に移った場合に、問題なく、まあ、問題ないわけではないのですけれども、スムーズに動けるように、何か考えようというプロジェクトがあります。J-GAP といいます。それから AP Japanese というのは高校生用に、アメリカのカレッジボードと共同で、日本語の言語と文化に関する試験を開発しているものです。それからそのほかにも、もうちょっと詳しい、もしくは詳しいだけではなくて、能力的なもの、どんなスキルができるかということに特に注目しまして、National Japanese Exam というものを開発しています。それから国際交流基金の日本語能力試験の米国での実施機関として、今までは国際交流基金だけだったのですけれども、今度は AATJ が後押しをして、もっと受けなさいと、受験人口を増やすことを目指しています。それからアメリカで教えている教員たちに、国際交流基金の考えているスタンダードを勉強しなさいということを行っています。【スライド②-20】

それから私のおりますサンディエゴ州立大学では、どんなことをしているかと申しますと、カリキュラムに、日本語で専攻と副専攻があります。それから奨学金プログラムがあります。それから交換留学プログラムですが、協定校が 20 校あります。そして交換留学に参加できない、経済的にできない、それからカリキュラム上、1学期もしくは1年取るのは難しいという学生たちのために、インターンシップのプログラムをつくっております。【スライド②-21】

そして、うちの大学のキャンパスですけれども、こういうところです。【スライド②-22, 23】

カリキュラムはいいでしょう。【スライド②-24】

交換留学ですけれども、今までうちの大学では、大きく学生たちは2つのグループに分かれておりました。1つのグループは大都会へ行きたいと。そしてもう一つのグループは、大都会で英語を使うのではなくて、できるだけ田舎のほうに行って、数少ないアメリカ人として鍛えられて、日本語能力を高めて、本当に上手になって帰ってきたいというグループです。しかしながら、ことしの10月25日に面接をしましたところ、34名の応募者のうち、23名が、第1希望、第2希望、第3希望も東京でした。東京のオリンピック招致が決定した影響だと思うのですけれども、東京は非常に人気があります。特に立教さんのように都心の大学ですね。東京外大とか中央はちょっと遠い、同じ東京でも郊外は嫌だ、大

都会のど真ん中に行きたいという学生が多くおりまして、ああ、これはもう東京での提携校を増やさなくてはいけないと思っております。今のところ、北海道に提携校がありませんので、北大と交渉中です。あと東京では明治大学と交渉中ですけれども、もうちょっと増やさないといけないなと思っております。【スライド②-25】

それから奨学金のプログラムですが、ことしの5月に第30回日本語科奨学金授賞式というのをやりました。なぜ30回かというと、私が行ってから30年目になるということです。着任時に日本語は既に17年出ているのですけれども、私が14代目の主任ということで、ほとんど毎年のように人が代わっていました。学生は、「先生、来年もいますか」みたいな形で顔を見に来ました。それから地元企業の方たちも、「まあ、あの大学は日本語やる気はあるのかね」というふうに思っていましたので、挨拶状を出して、「私は日本語の専攻をつくりこの大学に来ましたと。ですから、これからずっといます」ということを言って、ついでに「何か助けてくださるとありがたいです」ということを一言加えておきました。すると、京セラさんから、じゃあ何かに使ってくださいと、500ドルの小切手が来ました。そこからスタートして、今は1万200ドル、102万円ぐらいです。5万円から始めたことを考えれば、いいかなと思っています。いろいろなところから少しずつお金をいただいています。【スライド②-26】

そして、今度はアメリカ州立大学連合、American Association of State Colleges & Universities、通称AASCU（アスキュー）についてお話しします。州立大学430校がつくっている組合です。ワシントンDCにあります。その活動の1つとして、大学教員用のセミナーをやっています。National Faculty Development Institute “Incorporating Japanese Studies into the Undergraduate Curriculum”で、通称Japan Studies Instituteです。これは、日本のことを全く勉強したことがないけれども、ご自分のクラスで日本のことをちょっと触れてみたい、教えてみたいと思っている教員の方が、勤務先の大学の学長さんの推薦を得て応募してくださるプログラムです。もし審査に通った場合には、うちの大学で2週間、寮に入って、缶詰になって日本のことを勉強していただくというプログラムです。交通費も出ます。お小遣いも出ます。寮費も教材費も全てただという、夢のようなプログラムなんですけれども、缶詰になって勉強しなくてはいけないというプログラムです。【スライド②-27】

そして、これが AASCU のプログラムですが、うちの大学は 2013 年から正式な共催になったということで、こういう表紙を向こうが作ってくれました。【スライド②-28】ただし、私も毎年プログラムを作っていて、2013 年用にはこういうのを作りました。オレンジ色のができてしまったので、これは資料を入れるバインダーの表紙に使いました。【スライド②-29】それから広報もしっかりやります。【スライド②-30】今回は、先生方が 16 人全米からいらしてくださいました。これは、生け花のワークショップの後に撮った写真です。【スライド②-31】

最後になりましたが、アジア学会の活動についてちょっとお話しします。アジア学会の中にはいろいろな分野がありまして、Northeast Asia Council というのがあります。極東地域担当です。そこが Distinguished Speakers Bureau というプログラムを作りました。2011 年から始めまして、任期 3 年で、韓国と日本の専門家を大学に派遣するというプログラムです。これは全米で 12 名ぐらい選ばれています。DSB Scholar と呼ばれています。DSB Scholar は、派遣先での発表内容を学会のウェブサイトに登録しておきます。そして、そのリストを見た大学が、こういう先生に来て発表してもらいたいというのがある場合には、アジア学会にグラントを申請します。そして旅費、滞在費、その他全て折半という形で援助してもらえるプログラムです。【スライド②-32】

そして私も DSB Scholar ですが、私が登録していることは、日本語科の主任教授で、教科書も、初級・中級・上級、全部つくりましたので、教材開発とか、



それからカリキュラムの充実とか、そういうようなことで、もし質問があったらできますということ。そして、日本研究をどう盛り上げていくかということ。それから、日本の大学と交換留学、もしくは何らかの形での国際交流の機会を持ちたいという大学の場合には、何かお手伝いができますということです。そうしましたらフロストバーグ州立大学から依頼が来まして、日本の大学と提携を結びたいということでした。去年の11月に行きましたが、もう横浜国立大学と交換留学協定が締結されました。そして先月、ウエスト・ジョージア大学に行きました。やはり日本の大学と交流を結びたいということでした。立命館大学と今、交渉中ということです。【スライド②-33】

訪問する前にしておくことをお話しします。日本の大学と交流を結びたい、そして日本に関する資料は入手しにくいということですので、その地区担当の日本国総領事館、国際交流基金、JETRO (Japan External Trade Organization)、日本政府観光局の代表の人間、もしくは担当者に連絡を入れます。これからこういう大学に行くんだけど、この大学のこういう方から連絡が入ったら、よろしく頼むということを言って、根回しをしておきます。それから依頼校の情報も調べておきます。【スライド②-34, 35】

そして依頼校の希望に合致した日本の大学に連絡をします。例えば、ウエスト・ジョージア大学の場合には、できたら幼稚園から、少なくとも小学校から中学校、高校、大学とそろっている大学と協定を結びたいということでしたので、立命館、同志社、南山、青学に連絡を入れました。うちの提携校です。そうしますと、その中から、「いや、あの大学はと、オンラインで調べてみると、初級の日本語しか出ていないようなので、日本語に対する興味がないようだから遠慮する」という大学もありますし、「やりましょう」という大学もあります。一応調べておいて、行ったところで決定権を持った上層部の人間と面談します。学長、副学長、学部長、国際交流責任者などです。大体こういうところは、日本語のクラスを以前は出しているもやめてしまったところが多いので、上の人間に、日本語のクラスを出す、もしくは再開する必要性を説きます。そして、現場で苦勞している教員とも面談し、学生とも面談し、発表して、キャンパスの施設を見学します。【スライド②-36】訪問後、報告書を作成し、「いいですよ。うちでちょっと情報だけでもいただきます」と言ってくださった日本の大学、それから先ほどの四大政府機関に連絡を入れて、「こういう状態ですので、連絡が入ったらどうぞ対



応してやってください] ということを行います。【スライド②-37】

こういうようなことをして、私は何をやっているかという、親日家を育てているのです。交換留学を希望するような学生、若くて、日本に興味がある、行ってみたいと思ってくれる、そういう学生を送るのが一つです。何か日米関係がぎくしゃくしたときに、日本の立場を理解して代弁してくれるような親日家を一人でも増やしたいと思っています。ですから各大学でも名前が挙がっていて、学長に推薦されるような優秀な方が、これから日本のことを勉強して、日本のことを教えてくださるというのは非常にありがたいことです。そういう方たちの興味、それから好意を無駄にしないようにして、日本研究の充実もしくは親日家をどうやって増やすかということを日夜考えております。

以上でございます。【スライド②-38, 39】

○平山 日暮先生、ありがとうございました。

では、続きまして大島先生、どうぞよろしく願いいたします。

【スライド②-1】

北米の日本語教育の動向と  
日本語教育専門家の取り組み

サンディエゴ州立大学  
日本国際交流プログラムディレクター  
日本語科主任教授  
日暮嘉子

【スライド②-2】



【スライド②-3】

## 主なトピック

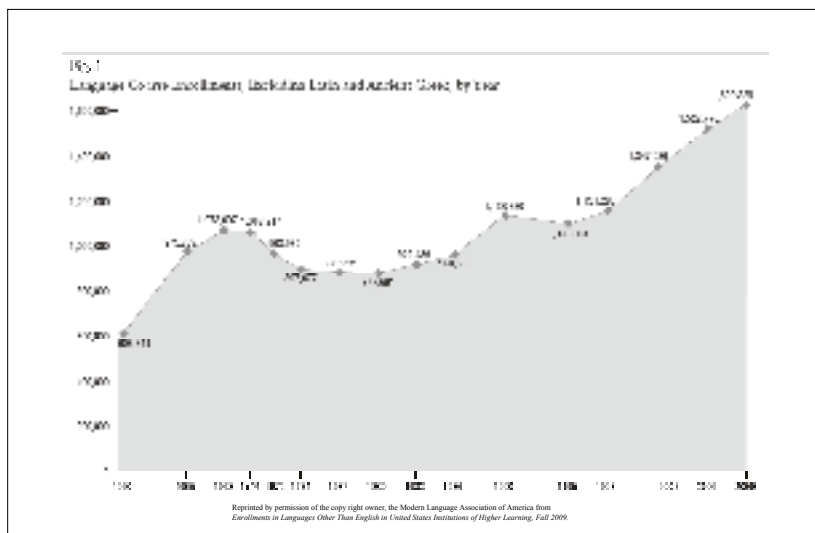
- 日本語学習者数の推移
- 全米日本語教育学会の活動
- サンディエゴ州立大学の活動
- アメリカ州立大学連合の活動
- アジア学会の活動

【スライド②-4】

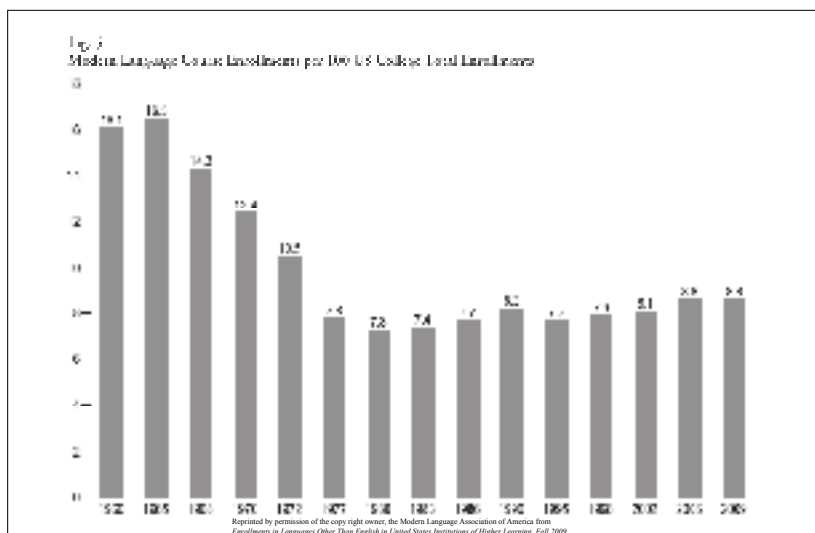
## 日本語学習者数の推移

- Modern Language Association (MLA)
- 大学レベルにおける外国語履修者数調査
- 1960年～2009年
- 3～4年毎に実施
- 最新のデータ、未発表

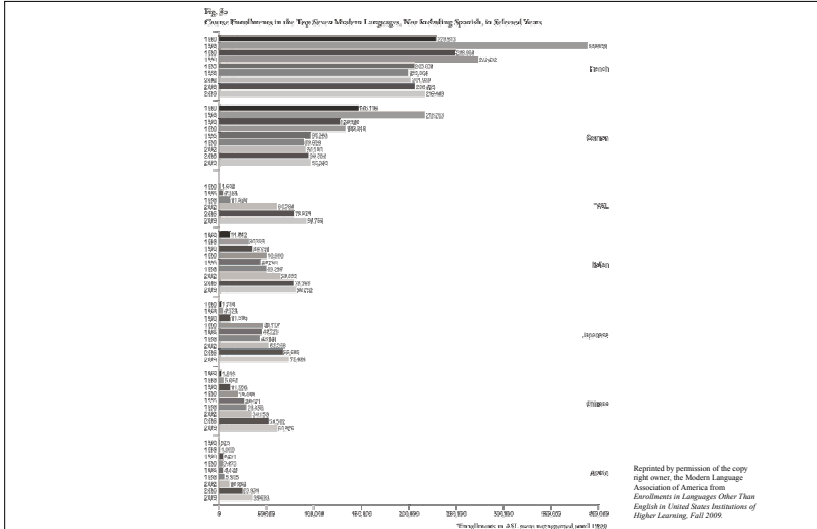
【スライド②-5】



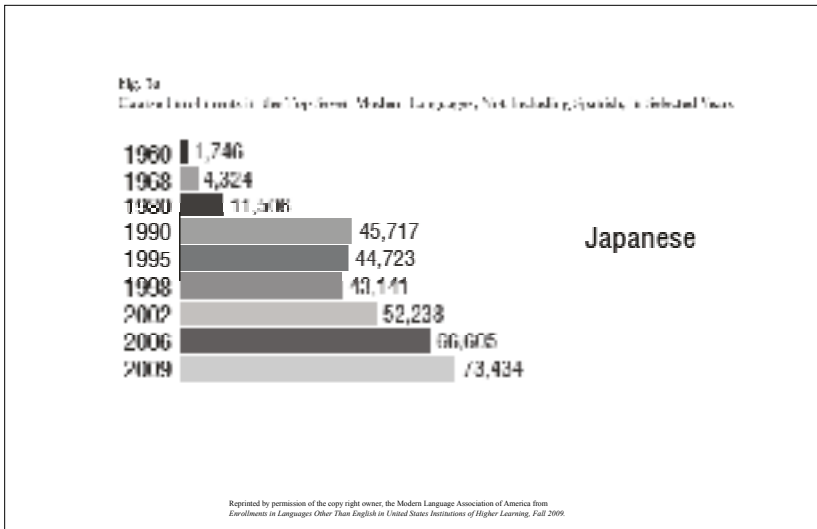
【スライド②-6】



[スライド②-7]



[スライド②-8]



[スライド②-9]

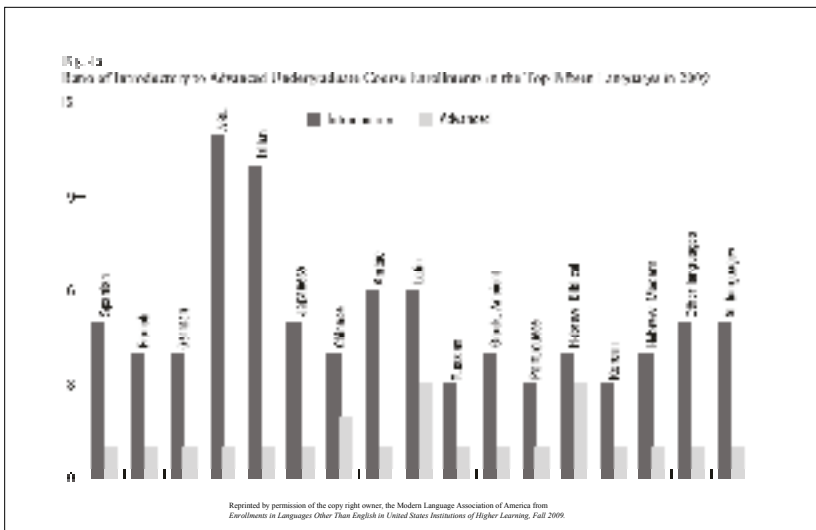
Table 1a  
Fall 2002, 2006, and 2015 Language Course Enrollments (Languages in  
Increasing Order of 2015 Total)

	2002	2006	% Change, 2006-02	2006	% Change, 2015-06
Spanish	256,567	307,332	19.8	364,286	17.9
French	201,073	209,616	4.2	216,615	3.3
German	51,103	56,204	9.8	58,249	3.6
Italian	41,761	45,519	8.7	47,292	3.7
Japanese	37,726	44,506	17.7	42,437	-4.7
Chinese	34,711	41,467	19.2	60,076	45.5
Arabic	30,484	33,076	8.5	56,035	69.5
Russian	29,917	32,161	7.5	32,104	-0.2
Hebrew	24,621	24,517	-0.4	26,824	9.4
Greek, Ancient*	21,976	22,419	2.0	19,685	-10.8
Hebrew, Biblical	11,165	11,140	-0.2	11,637	4.3
Portuguese	9,116	10,507	15.3	11,771	12.5
Yoruba	5,211	7,161	37.2	7,711	7.7
Hebrew, Modern	4,613	5,142	11.5	8,245	59.2
Other language	25,716	24,728	-3.8	40,747	64.8
Total	1,070,226	1,170,500	10.3	1,482,627	26.7

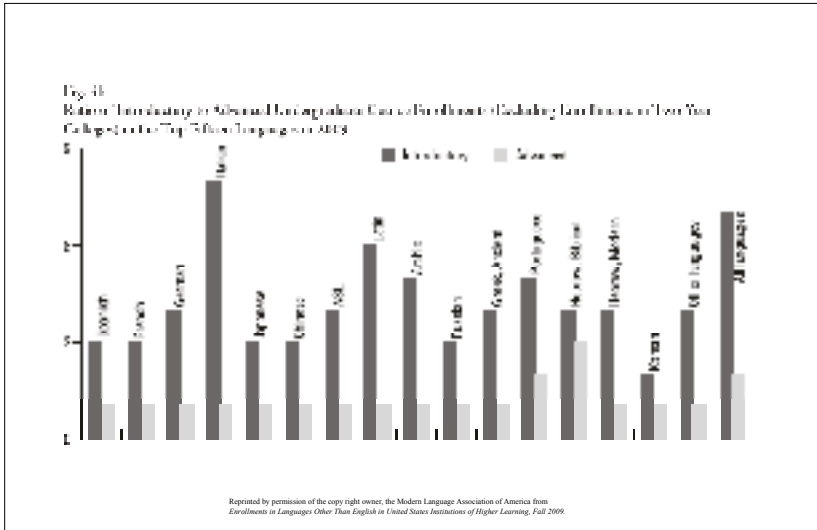
\*The Department of Classics at the University of California, Berkeley, reports its enrollment in ancient Greek, Latin, and other classical languages under the category "Ancient Greek" and other par古典 language categories have been reported under the category "Ancient Greek."

Reprinted by permission of the copyright owner, the Modern Language Association of America from *Enrollments in Languages Other Than English in United States Institutions of Higher Learning, Fall 2006*.

[スライド②-10]



【スライド②-11】



【スライド②-12】

**全米日本語教育学会**  
 American Assoc. of Teachers of Japanese (AATJ)  
 北米の二大日本語教育学会が統合して誕生  
 2012年1月1日  
 日本語教育学会  
 Association of Teachers of Japanese (ATJ)  
 +  
 日本語全米教師会  
 National Council of Japanese Language Teachers (NCJLT)

【スライド②-13】

## 日本語教育学会

Association of Teachers of Japanese (ATJ)

- 会員＝主に大学教員
- アジア学会傘下  
Association for Asian Studies  
(AAS)
- 年次総会＝アジア学会と同時開催 3月

【スライド②-14】

## 日本語全米教師会

National Council of Japanese Language Teachers  
(NCJLT)

- 会員＝主に小学校～高校の教員
- ACTFL傘下  
American council on the Teaching  
of Foreign Languages (ACTFL)
- 年次総会＝ACTFLと同時開催 11月



【スライド②-15】

## AATJ:学会

- 学会発表の機会 年に二回
- 11月  
ACTFLと同時開催 / 実践的  
他の外国語の教員と交流
- 3月  
AASと同時開催 / 学際的  
アジアに関する様々な分野の専門家と  
交流










【スライド②-16】

## AATJ: 教員用オンラインコース

- *Content-Based Instruction*
- *Basics of Japanese Language Teaching*
- *Reading Strategies and Classroom Instruction*
- 定員=16名
- 使用言語=主に日本語
- 使用文献=主に英語
- 全世界から参加

【スライド②-17】

**Nengajo Contest: 2013 Winners -- Middle School**

	金賞 (1st Place)	銀賞 (2nd Place)	銅賞 (3rd Place)
1st	 Tetsuya K. Nakagawa Middle School of St. Francis Baltimore, MD	 Mitsuki Yoshida Middle School of St. Francis Baltimore, MD	 Yuki Kato Middle School of St. Francis Baltimore, MD
2nd	 Yuki Kato Middle School of St. Francis Baltimore, MD	 Mitsuki Yoshida Middle School of St. Francis Baltimore, MD	 Yuki Kato Middle School of St. Francis Baltimore, MD
3rd	 Yuki Kato Middle School of St. Francis Baltimore, MD	 Mitsuki Yoshida Middle School of St. Francis Baltimore, MD	 Yuki Kato Middle School of St. Francis Baltimore, MD

© 1998 - 2014 American Association of Teachers of Japanese • All Rights Reserved

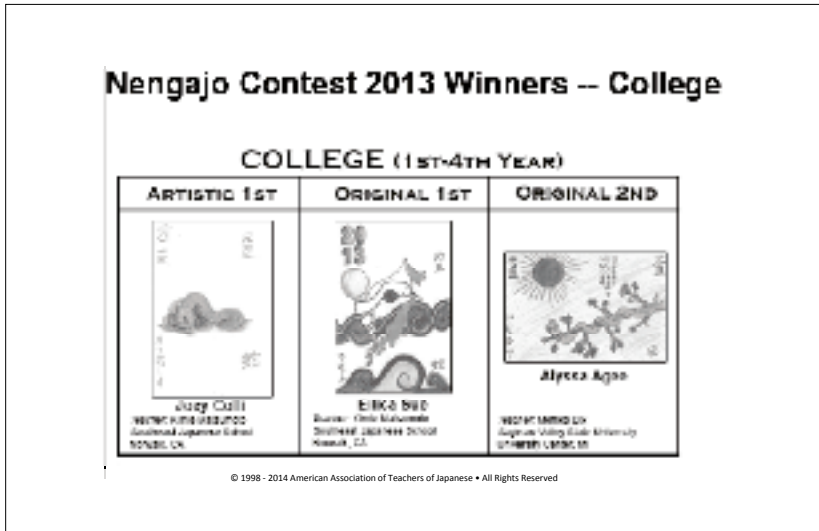
【スライド②-18】

**Nengajo Contest 2013 Winners -- High School**

	金賞 (1st Place)	銀賞 (2nd Place)	銅賞 (3rd Place)
1st	 Yuki Kato High School of St. Francis Baltimore, MD	 Mitsuki Yoshida High School of St. Francis Baltimore, MD	 Yuki Kato High School of St. Francis Baltimore, MD
2nd	 Yuki Kato High School of St. Francis Baltimore, MD	 Mitsuki Yoshida High School of St. Francis Baltimore, MD	 Yuki Kato High School of St. Francis Baltimore, MD
3rd	 Yuki Kato High School of St. Francis Baltimore, MD	 Mitsuki Yoshida High School of St. Francis Baltimore, MD	 Yuki Kato High School of St. Francis Baltimore, MD

© 1998 - 2014 American Association of Teachers of Japanese • All Rights Reserved

【スライド②-19】



【スライド②-20】

## AATJ: Articulation

- J-GAP Project
- AP Japanese 開発
- National Japanese Exam 開発
- JLPT (日本語能力試験) 米国での実施機関

【スライド②-21】

サンディエゴ州立大学  
San Diego State University (SDSU)

- カリキュラム 日本語:専攻と副専攻
- 奨学金プログラム
- 交換留学プログラム 協定校 20校
- インターンシッププログラム

【スライド②-22】



【スライド②-23】



【スライド②-24】

San Diego State University  
Department of Linguistics and Anthropology Eastern Languages

### JAPANESE LANGUAGE MAJOR (2013-2014)

Japanese represented the fastest growth rate of all languages in U.S. higher education during the 1990s, and will continue its popularity, because of the interdependence between the U.S. and Japan, Japan's place in the world economy, and the popularity of anime and Japanese film and music.

Students who major in Japanese will gain proficiency in Japanese language skills, a deep understanding of the cultural language values of people and a variety of academic disciplines across disciplinary boundaries.

The Japanese Language program offers a broad variety of courses designed to prepare majors for a number of careers and professions. A major in Japanese is also a good preparation for a number of graduate programs in such areas as international business, international law, public administration, linguistics, and journalism.

*Program Summary*

**Prerequisites for the Major**

YEAR 1		YEAR 2	
FALL	SPRING	FALL	SPRING
<b>Required Courses</b>			
LINGUIST 20	JAPANESE 101	JAPANESE 101	JAPANESE 102
Language I	Language II	Language I	Language II
4 credits	4 credits	4 credits	4 credits

**20-hour division units**

**Majors**

YEAR 2		YEAR 4	
FALL	SPRING	FALL	SPRING
<b>Required Courses</b>			
JAPANESE 201	JAPANESE 202	JAPANESE 201	JAPANESE 202
Language III	Language III	Language III	Language III
4 credits	4 credits	4 credits	4 credits
<b>Elective Courses</b>			
JAPANESE 203	JAPANESE 204	JAPANESE 203	JAPANESE 204
Advanced I	Advanced II	Advanced I	Advanced II
4 credits	4 credits	4 credits	4 credits

**24 major division units (12 units of required course + 12 units of elective course)**

【スライド②-25】



SDSU Japan Exchange Programs

- Aoyama Gakuin U. 青山学院大学
- Chuo U. 中央大学
- Doshisha U. 同志社大学
- Gifu U. 岐阜大学
- Gunma U. 群馬大学
- Hiroaki U. 弘前大学
- Hosei U. 法政大学
- Kyoto Sangyo U. 京都産業大学
- Kyushu U. 九州大
- Nanzan U. 南山大学
- Oita U. 大分大学
- Osaka Int'l U. 大阪国際大学
- Osaka U. of Arts 大阪芸術大学
- Shikyo U. 立教大学
- Ritsumeikan U. 立命館大学
- Ritsumeikan Asia Pacific 立命館アジア太平洋大学
- Seinan Gakuin U. 西南学院大学
- Tokyo U. of Foreign Studies 東京外国語大学
- Toyo Eiwa U. 東洋英和女学館大
- Yokohama National U. 横浜国立大学

【スライド②-26】

SDSU 日本語科奨学金プログラム

- 2013年5月
- 第30回日本語科奨学金授賞式
- 総額 \$ 10,200.00
- 京セラ奨学金
- 京セラ ベスト スチューデント賞
- デロイト トウシュ奨学金
- ユニオンバンク奨学金
- SDSU国際交流室奨学金他

【スライド②-27】

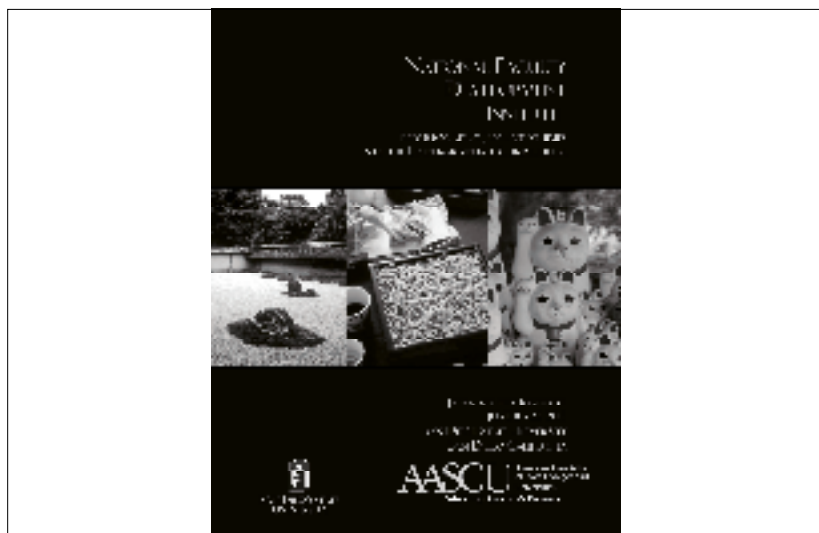
**アメリカ州立大学連合**  
American Assoc. of State Colleges & Universities  
(AASCU)

National Faculty Development Institute  
“Incorporating Japanese Studies into the  
Undergraduate Curriculum”  
(通称 “Japan Studies Institute”)

【スライド②-28】

The image shows a dark-themed graphic with the AASCU logo at the top. Below it, the text 'JAPAN STUDIES INSTITUTE' is prominently displayed in a stylized font. To the left of this text is a vertical list of Japanese text: '事務局', '〒100-0001', '東京都千代田区千代田', and '1-1-1'. At the bottom left is the logo for 'The National Faculty Development Institute'. At the bottom right, there is contact information: 'AASCU 1000 16th Street, N.W., Washington, D.C. 20036-4141' and 'Tel: 202-462-6000'.

【スライド②-29】



【スライド②-30】





【スライド②-31】



【スライド②-32】

## アジア学会の活動

- Northeast Asia Council (NEAC)  
“Distinguished Speakers Bureau”  
(DSB) Program
- 2011年開始
- 任期(3年):2011-2014
- 韓国と日本の専門家を大学に派遣
- 旅費:受け入れ校とアジア学会が折半

【スライド②-33】

## AAS/NEAC Distinguished Speakers Bureau

- Frostburg State University  
2012年11月訪問  
横浜国立大学と交換留学協定締結
- University of West Georgia  
2013年11月訪問  
立命館大学と交渉中

【スライド②-34】

## DSB Scholar: 訪問前の仕事

四大日本政府機関の代表／担当者に連絡

- 日本国総領事館
- 国際交流基金
- 日本貿易振興機構(ジェトロ)
- 日本政府観光局

依頼校の情報を徹底的に調査

【スライド②-35】

## DSB Scholar:訪問前の仕事

依頼校の希望に合致した日本の大学に連絡  
協定校拡大に興味があるかどうか尋ねる。

あるとすると、

依頼校に興味があるか。

あるとすると、

訪問後、日暮がレポートを提出するが、  
依頼校には誰宛に連絡を入れるよう指示  
したらよいか。

【スライド②-36】

## DSB Scholar:訪問中の仕事

- 決定権を持った上層部の人間と面談  
学長、副学長、学部長、国際交流責任者  
日本語のクラスを出す(再開する)  
必要性を説く。
- 現場で苦勞している教員と面談
- 学生と面談
- 発表
- キャンパスの施設を見学

【スライド②-37】

## DSB Scholar:訪問後の仕事

報告書を提出

依頼校の誰から連絡が入るか報告

- 日本の大学
- 四大政府機関

【スライド②-38】



【スライド②-39】

